

第2号

南栗遺跡 発掘たより

2022年7月19日発行

◆ 異例の暑さの中、発掘調査は進んでいます

5月9日（月）から、はじめた南栗（みなみくり）遺跡の発掘調査も2か月がたちました。関東甲信地方は6月27日、記録的に早い梅雨明けとなり、28日からは、最高気温が35℃を超える猛暑日が続きました。例年であれば徐々に気温が上がり、体の方も対応できますが、一気に訪れた真夏の日差しに、休息をこまめにとるなど、熱中症対策に気を使いながら発掘調査を進めています。

現在までに、重機によって、約6,000㎡の表土剥ぎを行いました。その結果、平安時代の^{たてあな}竪穴建物跡が25軒、^{ほったて}掘立柱建物跡が3棟、^{ところ}土坑4基を見つけることができました。

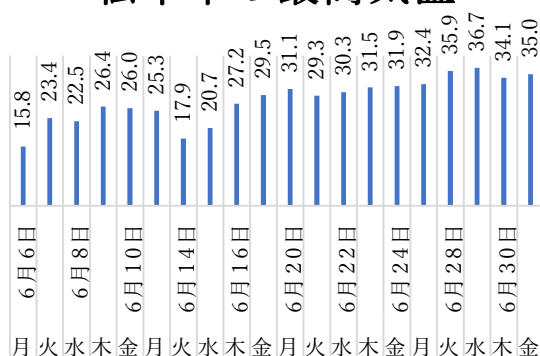
◆ 竪穴建物跡の調査に着手

平安時代の竪穴建物跡には、竪穴の壁際にカマドを作ります。南栗遺跡では東壁にカマドを作る家が多いようです。おそらく当時の風向きが影響していると考えられます。

下の2枚の写真は、現在調査中の2軒の竪穴建物跡のカマド周辺で、多くの土器が出土した様子です。当時の台所周りなので多くの食器が残されていたのでしょうか。また、家を^{はいぜつ}廃絶する時に、土器を奉納または廃棄するようなカマド祭祀があったのではないかという説もあります。



松本市の最高気温



気象庁 HP より作成

◆ 古代の土器

長野県埋蔵文化財センター1990『遺跡は語る』より抜粋



奈良時代（8世紀）の土器 北栗遺跡



平安時代後半期（11世紀）の土器 南栗遺跡

現在南栗遺跡では、赤褐色をした土師器、身の内側が黒い黒色土器、青灰色をした須恵器、釉（うわぐすり）をかけた灰釉陶器などが出土しています。

土師器は、縄文～弥生土器と同じように野焼きで作られた土器で、坏や碗といった現在のご飯茶碗のような食器や、煮炊きを使う甕や羽釜などの調理具があります。

須恵器は、窯を使い高温で焼き上げます。5世紀に朝鮮半島から伝わった革新的な技術でした。坏や蓋のような食器、貯蔵用の甕・壺などがあります。

灰釉陶器は、奈良時代には高級食器として、地方官衙や寺院などで使用されましたが、時代と共に庶民の日常食器としても普及するようになりました。碗や皿などがあります。

◆ 埋文センター発掘今昔



昭和61（1986）年の調査員棟など



令和4（2022）年の調査員棟など

発掘現場に設置される仮設建物も時代とともに変わりました。

左上の写真は今から37年前の昭和61年高速道発掘時（北栗遺跡）の調査員棟・作業員棟・器材庫で、組み立て式のプレハブでした。左下の写真は現在、南栗遺跡に設置した調査員棟などで、ユニットハウスです。写真にはありませんが、トイレも和式から現在は、簡易水洗の洋式となりました。ちなみに写っている車はどちらも河西班長の愛車で、上はトヨタ コルサ、下はホンダ オデッセイです。

長野県埋蔵文化財センター

担当：河西克造/大竹憲昭/平林 彰

携帯：070-4132-8528

メール：maibun@naganobunka.or.jp

HP：https://naganomaibun.or.jp